

## 京丹後市立病院改革プラン

# 評 価 調 書

久美浜病院

項目		目標	H29 実績	自己評価	H30 実績	自己評価	点検・評価意見
大	中						
地域医療構想を踏まえた役割の明確化	地域医療構想を踏まえた果たすべき役割	常勤医師体制の確保・充実により、急性期から慢性期まで市民の期待に応えられる医療施設	年度当初には常勤の整形外科医師、さらには外科医師の増員が実現し、救急医療体制が充実したが、年度途中で整形外科医師が非常勤化し、さらには医師2人が体調不良による長期休養となり、診療体制は深刻な状況となった。 そうした中でも、医師や看護師など職員間の連携を強化することで、影響を最小限に抑え市民の医療ニーズに応えることができた。 入院患者数 54,375人（前年度比140人増） [B] 外来患者数 74,864人（前年度比1,538人減） [B] 救急患者数 5,718人（前年度比195人増） [A]	B	年度当初には3ヶ月交替ではあるが整形外科医師の常勤化が実現したが、内科医師数の減少により、診療体制は深刻な状況となった。 そうした中でも、多くの新たな診療報酬増加に繋がる届出を行ったり、医師や看護師など職員間の連携を強化することで、影響を最小限に抑え市民の医療ニーズに応えることができた。 入院患者数 55,364人（前年度比989人増） [B] 外来患者数 77,178人（前年度比2,314人増） [B] 救急患者数 6,613人（前年度比895人増） [A]	B	
		市内で唯一の小児救急病院を含む救急告示病院としての救急医療体制の堅持	小児科医師2名体制で小児医療を支えている中、年度途中で医師1名が長期の休養となったが、関係大学からの支援を受け、市内で唯一の小児救急病院としての役割を果たすことができた。 小児患者数 11,416人（前年比2,345人減） [A]	A	小児科医師2名体制で小児医療を支えている中、救急患者も積極的に受け入れ、年間3,012人の小児救急患者の受入を行い、市内で唯一の小児救急病院としての役割を果たすことができた。 小児患者数 12,509人（前年比1,093人増） [A]	A	
		医療と保健、介護、福祉を一体化した地域包括医療・ケアシステムのさらなる推進のための中核的な医療施設	関係団体や福祉施設の職員との地域ケア会議の定期開催により、多職種間での連携強化の取り組みを推進し、地域医療連携室では延13,000件を超える医療・福祉の相談を受ける中、積極的な支援を行い県境を越えた兵庫県からも豊岡病院などからも延8,300人（前年比1,500人増）の患者受入を行った。	A	関係団体や福祉施設の職員との地域ケア会議の定期開催により、多職種間での連携強化の取り組みを推進し、地域医療連携室では延15,501件の医療・福祉の相談を受ける中、積極的な支援を行い県境を越えた兵庫県からも豊岡病院などからも延6,151人（前年比2,149人減）の患者受入を行った。	A	
		障害児者を含む歯科口腔疾患の北部の拠点的な歯科診療施設としての医療体制の充実	北部の拠点的な歯科診療施設としての役割を果たすため、常勤医4人、研修医2人体制を維持して取り組んだが、年度途中で医師1人が長期休養し欠員状況となった。しかし、そうした中でも、地域内外の歯科診療所からの紹介患者の受け入れなどを積極的に行った。 歯科患者数 19,883人（前年度比 665人増） [A] （入院4,436人、外来15,447人） うち障害児者 940人（前年度比 54人減） [B] （入院 121人、外来 819人）	A	常勤医4人、研修医2人体制を維持して、北部の拠点的な歯科診療施設としての役割を果たすため取り組んだが、前年度に比べ1名の欠員状況となった。しかし、そうした中でも、地域内外の歯科診療所からの紹介患者の受け入れなどを積極的に行った。 歯科患者数 20,129人（前年度比 246人増） [A] （入院4,139人、外来15,990人） うち障害児者 1,100人（前年度比 160人増） [A] （入院 195人、外来 905人）	A	
		訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションなど在宅医療、在宅支援のための医療体制の充実	地域医療・在宅医療への支援として、引き続き訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションなどの体制を維持した。とくに訪問看護においては年度途中で看護師1人を増員し訪問体制の充実を図った。 訪問診療 58人（前年度比 36人減） [B] 訪問看護 4,874人（前年度比483人増） [A] 通所リハビリテーション 4,107人（前年度比 51人減） [B] 看取り支援 35人（前年度比 24人増） [A] 医師派遣（福祉施設） 347回 [A]	A	地域医療・在宅医療への支援として、引き続き訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションなどの体制を維持した。とくに訪問看護においては、訪問体制の充実を図り大幅に訪問回数を増やした。 訪問診療 75人（前年度比 17人増） [A] 訪問看護 6,046人（前年度比1,172人増） [A] 通所リハビリテーション 3,974人（前年度比 133人減） [B] 看取り支援 30人（前年度比 5人減） [A] 医師派遣（福祉施設） 288回 [A]	A	
		へき地医療拠点病院としてのへき地診療所への医療支援	前年度に引き続き佐濃診療所へ医師と看護師、また、新たに薬剤師の派遣を週1回行い、医師不在地域の医療要望に応えた。 医師派遣（佐濃診療所） 50回 [A]	A	前年度に引き続き佐濃診療所へ医師、看護師、薬剤師の派遣を週1回行い、医師不在地域の医療を支えている。 医師派遣（佐濃診療所） 48回 [A]	A	
		各種検診事業への医師派遣など予防医療への支援	近隣の保育所や小学校等の予防接種、人間ドックや脳ドック等にも積極的に対応した。各関係団体や施設の囑託医、産業医としての医師派遣も積極的に行った。	A	近隣の保育所や小学校等の予防接種、人間ドックや脳ドック等の受入体制を新たに整備し積極的に対応した。各関係団体や施設の囑託医、産業医としての医師派遣も積極的に行った。	A	

項目		目標	H29 実績	自己評価	H30 実績	自己評価	点検・評価意見
大	中						
地域医療構想を踏まえた役割の明確化	平成37年(2025年)における具体的な将来像	現在の医療提供体制や病床機能を維持しながら地域包括医療・ケアシステムをさらに推し進め、医療と保健、介護、福祉の連携によって「住民が安心して暮らし、老うことのできる地域づくり」の拠点施設としての役割を果たす	京丹後市西部地域における住民のかかりつけ医として、急性期から慢性期、さらには在宅医療まで切れ目のないサポートの出来る病院としての医療体制や病床機能を維持し、引き続き住民の健康と安心を守る地域づくりの拠点施設としての役割を果たした。	A	急性期から慢性期、さらには在宅医療まで切れ目のないサポートの出来る病院としての医療体制や病床機能を維持し、京丹後市西部地域における住民のかかりつけ医として、引き続き住民の健康と安心を守る地域づくりの拠点施設としての役割を果たした。	A	
		築35年を経過し老朽化した第2病棟の整備をはじめ、地域から要望の高い透析治療などの医療体制の拡充を図るため、第1病棟、第3病棟を含めた病院全体の整備のあり方の検討を行う	病院全体の整備について院内で検討したが、まずは経営改善を進め資金の確保に努めることを第一優先とした。	B	病院全体の整備について院内で検討したが、引き続き経営改善を進め資金の確保に努めることを第一優先とした。	B	
地域包括医療・ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割	地域に密着した医療施設として保健・介護・福祉との連携機能をさらに充実させ地域包括医療・ケアシステム推進のための中心的な役割を果たす。また、本システムの推進のため、病床の一部を新たに地域包括ケア病床への転床を検討し、在宅復帰支援に向けた機能を強化	当地域にはかかりつけ医となる開業医が極めて少なく、当院が地域住民のかかりつけ医としての役割を持ちながら急性期医療から慢性期医療、さらには在宅医療まで幅広く医療を提供できる医療機能を維持し、地域住民の医療ニーズに応えるべく努めた。また、保健・介護・福祉との連携機能の充実に向けて毎月地域ケア会議を開催し、地域包括医療・ケアをさらに進めた。地域包括ケア病床への転換の検討については、導入効果に対する費用対効果の検討を行った結果、当面、転床は行わず現在の病棟区分のまま在宅復帰支援に向けた強化を図ることとした。	A	当地域にはかかりつけ医となる開業医が極めて少なく、当院が地域住民のかかりつけ医としての役割を持ちながら急性期医療から慢性期医療、さらには在宅医療まで幅広く医療を提供できる医療機能を維持し、地域住民の医療ニーズに応えるべく努めた。また、保健・介護・福祉との連携機能の充実に向けて毎月地域ケア会議を開催し、地域包括医療・ケアをさらに進めた。地域包括ケア病床への転換の検討については、導入効果に対する費用対効果の検討を行った結果、当面、転床は行わず現在の病棟区分のまま在宅復帰支援に向けた強化を図ることとした。	A		
住民の理解のための取り組み		①病院まつり、院内学会などを通じた「開かれた病院づくり」の推進	①第4回久美浜病院まつりを開催したほか、第14回院内学会（地域包括医療・ケア学会）を継続開催するなど「開かれた病院づくり」を推進した。[A]	A	①第5回久美浜病院まつりを開催ほか、第15回院内学会（地域包括医療・ケア学会）を継続開催するなど「開かれた病院づくり」を推進した。[A]	A	
		②市広報紙、病院広報紙、病院ホームページを活用した情報の発信	②院内広報誌を2回発行したほか、ホームページをリニューアルを行い、積極的な更新により病院運営の広報に努めた。[A]		②院内広報誌を2回発行したほか、ホームページをの積極的な更新により病院運営の広報に努めた。[A]		
		③病院出前講座、住民主催の学習会等への講師派遣や共同開催等、積極的に住民と意見交換を行うことを通じた住民との相互理解による病院運営の推進	③年間20回の出前講座、講師派遣や懇談会を開催し、延657人の地域住民に対して久美浜病院に対する理解を深めていただいた。[A]		③年間20回の出前講座や懇談会を開催し、延813人の地域住民に対して久美浜病院に対する理解を深めていただいた。[A]		

項目		目標	H29 実績	自己評価	H30 実績	自己評価	点検・評価意見
大	中						
経営の効率化	民間的経営手法の導入	①キャッシュ・フロー計算書を重視し徹底した資金管理 ②人員管理の徹底を図り効率的配置 ③経営コンサルタントによる第三者評価 ④データを活用した経営分析による職員のコスト意識の醸成	①資金の流れを確認しながら経営を行ったが、入院患者、外来患者数の減により資金が減少した。[B] ②経営状況を考えたうえで適正な人員配置を行った。[B] ③毎月経営コンサルタントとの協議を重ねながら収益増加への方法を模索した。[A] ④毎月の会議において経営状況を各職場の長へ周知し、全職員への徹底を図った。[A]	B	①資金の流れを確認しながら経営を行ったが、入院患者、外来患者数の伸び悩みにより資金が減少した。[B] ②経営状況を考えたうえで適正な人員配置を行った。[B] ③毎月経営コンサルタントとの協議を重ねながら収益増加や費用削減の方法を模索した。[A] ④毎月の会議において経営状況を各職場の長へ周知し、全職員へのコスト意識の徹底を図った。[A]	B	
	事業規模	現在の170床の床規模(一般病床110床、療養病床60床)を維持	現状の病床機能を維持することとした。[A]	A	現状の病床機能を維持することとした。[A]	A	
	経費削減・抑制対策	①医薬品の両病院共同による価格交渉 ②診療材料等の一括購入や価格交渉による徹底した価格の削減 ③医療機器の徹底した価格比較と競争入札による安価な購入・契約価格の削減 ④ジェネリック医薬品への効率的な切り替え ⑤光熱水費の削減(LED化、照明センサー化など)	①弥栄病院との医薬品の共同購入による購入価格の削減を図った。[A] ②SPD業者との毎月協議により、診療材料等購入は前年度比約600万円(前契約単価で比較)を削減。[A] ③経営コンサルタントから得た医療機器の全国的な購入価格を参考にして入札価格を抑えた。[A] ④取扱いメーカーを検討し、可能な限りジェネリック医薬品への切替を行った。[B] ⑤病院全体のLED化を検討したが、初期投資に費用がかかりすぎる為、随時の切替とした。[B] ※SPD…医療消耗材料など全ての物品を管理する業務	A	①弥栄病院との医薬品の共同購入による購入費価格の削減を図った。(全国平均を下回る購入価格)。[A] ②SPD業者との毎月協議により、診療材料等の購入は前年度比約2,940万円を(前契約単価で比較)削減。[A] ③経営コンサルタントから得た医療機器の全国的な購入価格を参考にして入札価格を抑えた。[A] ④取扱いメーカーを検討し、可能な限りジェネリック医薬品への切替を行った(平成31年3月末78.6%)。[A] ⑤初期投資に費用がかかりすぎる為、病院全体のLED化は随時の切替とし、病院全体で光熱水費の削減に努めた。[B]	A	

項目		目標	H29 実績	自己評価	H30 実績	自己評価	点検・評価意見
大	中						
経営の効率化	収入増加・確保対策	<p>①新たな加算、管理料、指導料などの算定に向けた診療機能・人員配置の検討</p> <p>②地域包括ケア病床の設置による、入院費用単価の増額</p> <p>③臨床検査の内容、手順の見直しによる検査件数の増加</p> <p>④専門外来の開設、夜間診療の実施など医療ニーズを踏まえた外来患者の増加</p> <p>⑤社会福祉士の配置など患者や患者家族との医療相談窓口体制の充実</p> <p>⑥診療報酬請求に係る精度管理の徹底と院内研修、外部研修の実施</p> <p>⑦未収金に係る法的対応の実施</p>	<p>①新たに病棟薬剤業務実施加算の算定を行うため薬剤師の配置を見直し、診療報酬の増収を図った。[B]</p> <p>②地域包括ケア病床の検討を行ったが、転床による増収効果より人件費等の費用増が大きいなど課題があったため、現時点では転床はしないこととした。[B]</p> <p>③他院の検査状況と比較しながら医師等へ定期的に報告を行い、検査件数の増加に努めた。[A]</p> <p>④夜間診療、糖尿病フットケア外来開設を行い、外来患者の増加を図った。[A]</p> <p>⑤4月から地域連携室に社会福祉士を配置し、他施設との連携に力をいれ、相談窓口の充実に努めた。[A]</p> <p>⑥年間2回の精度管理研修を行い、診療報酬請求の徹底を図った。[A]</p> <p>⑦クレジットカード支払を導入し、未収金の発生防止に努めた。未収金については、電話や文書での支払催促を徹底するとともに、弁護士法人へ回収業務を委託した。回収困難となった場合の法的対応については対応すべき案件がなかった。[A]</p>	B	<p>①新たに入退院支援加算など14の施設基準取得のための届出をおこない、診療報酬の増収を図った。[A]</p> <p>②継続して地域包括ケア病床の検討を行ったが、転床による増収効果より人件費等の費用増が大きいなど課題があったため、今回転床はしないこととした。[B]</p> <p>③他院との検査状況比較について医師等へ定期的に報告を行い、検査件数の増加に努めた。[A]</p> <p>④夜間診療、糖尿病フットケア外来を継続し、外来患者の増加を図った。[A]</p> <p>⑤福祉施設や他病院との連携をさらに推し進め、相談窓口の充実に努めた。[A]</p> <p>⑥精度管理報告会を行い、診療報酬請求の徹底を図った。[A]</p> <p>⑦クレジットカード支払を推奨したほか、念願であったATMを会計窓口横に設置するなど未収金の発生防止に努めた。未集金については、電話や文書での支払催促を徹底するとともに弁護士法人へ回収業務を委託した。回収困難となったケースの法的対応については対応すべき案件がなかった。[A]</p>	A	
	人材育成	<p>①医師・歯科医師臨床研修医などの積極的な受入れによる質の高い医療従事者の育成</p> <p>②関係大学病院等との連携による若手医師の研修支援による医療技術の向上</p> <p>③認定看護師など専門性の高い知識や技術を習得するための職員研修の充実</p> <p>④患者満足度の向上のための接遇研修の強化</p>	<p>①②京都第二赤十字病院から研修医8人、洛和会音羽病院から後期研修医3人の受入れたほか、病院独自に歯科の研修医1人を受け入れた。さらには関係大学より医療従事者の受入れを可能な限り行い、若手育成に努めた。[A]</p> <p>③認定看護師等の資格取得の為の長期研修に参加した。[A]</p> <p>④「接遇向上委員会」を設置し、患者サービス向上の為の院内接遇研修を定期的実施した。また、患者満足度調査を実施し、その結果を活用し、より患者さんから選ばれる病院づくりに向けた取り組みを実施した。[A]</p>	A	<p>①②京都第二赤十字病院から研修医8人、洛和会音羽病院から後期研修医4人を受入れたほか、病院独自に歯科の研修医2人を受け入れた。さらには関係大学より可能な限り医療従事者の受入れを行い、若手医師育成に努めた。[A]</p> <p>③認定看護師等の資格取得の為の長期研修に参加した。[A]</p> <p>④「接遇向上委員会」を定期開催し、患者サービス向上の為の院内接遇研修を年2回実施した。また、毎年、患者満足度調査を実施し、その結果を活用し、より患者さんから選ばれる病院づくりに向けた取り組みを実施した。[A]</p>	A	
	その他	公立豊岡病院(急性期病院)など近接する兵庫県北部の医療機関との連携強化による診療圏の拡大	公立豊岡病院との交流会や日常的な情報共有等を通じて積極的な連携維持に取り組んだ。その結果、豊岡病院を含む豊岡市内の医療機関から地域医療連携室を経由して年間8,300人(前年比1,500人増)の患者を受け入れた。[A]	A	公立豊岡病院との交流会や日常的な情報共有等を通じて積極的な連携維持に取り組んだ。その結果、豊岡病院を含む豊岡市内の医療機関から、地域医療連携室を経由して年間6,151人(前年比2,149人減)の患者を受け入れた。[A]	A	